

専門分科会とスペシャル・セッションの統合について

講演企画委員会

現在、春季大会で専門分科会、秋季大会でスペシャル・セッションが企画されていますが、両者の趣旨が明確に提示、認識されていないため、実態として両者に明確な区別が無く、企画・実施されているという問題提起が、第38期講演企画委員会で行なわれました。具体的には、以下のような問題提起です。

- 1) 専門分科会とスペシャル・セッションの目的や趣旨が大会規程などで明示されておらず、両者の相違が会員に充分認識されていない。
- 2) そのため、現状は、両者の本来の目的や趣旨とは必ずしも合致しない提案も散見される。

こうした委員会での議論を踏まえ、第38期第20回理事会（2016年3月22日）では、両企画のあり方について早急に検討を行うことになっておりました（日本気象学会理事会 2016）。

両企画を紐解いてみますと、以下の通りです。まず、スペシャル・セッションは、1988年度秋季大会から開始され、「討論を活発にするためには、特定のテーマに関心のある人が呼びかけ人となり、そのテーマの発表を募って1セッションを開くこともあった方がよい」という趣旨から始まり（講演企画委員会 1988）、「新しいわく組みが、試行錯誤の末、通常のセッション分類に加わることである。もう一つは、その時々『熱い』話題について機動的に集中討論の場を作ることである」ことが期待されていました（増田 1988）。

一方、専門分科会は、「毎回、特定のテーマをいくつか決めて、シンポジウム（分科会）を行うこと、シンポジウムでは基調講演・一般講演（研究発表）ともに十分な時間とって相互の議論が噛み合うようにし、また参加者との討論にも時間をとろう、というものです（いさゝか欲張り過ぎで、簡単には目論み通りにならないかもしれませんが）、要するにもっと議論をしよう」が企図されていました（松野 1997）。企画に当たっては、「それぞれの分科会のテーマごとに指名された各分野を代表するコンピーナーが、講演企画委員会に代わって、その分科会に申し込まれた発表を選別してプログラムを作成する役割を担う」（講演企

画委員会 1996a, b）ことになっています。

講演企画委員会では、第38期から第39期にかけて、本提起について、継続して議論してきました。大会告示には、スペシャル・セッションと専門分科会に関する規程等について必要最低限しか説明されておらず、両企画の趣旨が提案者と発表者に自覚しにくいという指摘もありました。また、会員への周知とは別に、春に専門分科会、秋にスペシャル・セッションと振り分ける現状で良いか（必然的に年1回の開催）、たとえ趣旨を周知したとしても、会員に浸透させることは難しく、両者を統合してはどうかという意見もありました。

両者の異同をまとめた対照表を見ると（第1表）、趣旨は異なるものの、運営形態には大きな差はありません。また、企画の提案から開催まで半年近く掛かることを考えると、年一度の機会では、発生した顕著現象の研究発表の場として、機を逸する場合も出てきます。更に、両企画の趣旨が混在した提案もあり得ます。これらの点と現状を踏まえて、第39期第7回理事会では、従来のスペシャル・セッションと専門分科会のどちらの趣旨の企画でも柔軟に対応する形で、スペシャル・セッションと専門分科会とを統合するという結論に至りました（第39期第7回理事会、2016年12月

第1表 従来のスペシャル・セッションと専門分科会の対照。

	スペシャル・セッション	専門分科会
開催時期	秋季	春季
学問領域	学際的	専門的
テーマ	最新、萌芽的研究テーマ	専門性のある特定のテーマ
継続性	弱い	強い
提案者名称	世話人	コンピーナー
講演資格	提案内容による（各世話人の判断）	原則学会員（各コンピーナーの判断）
講演時間	一般講演に準ずる	コンピーナーの裁量大（実情は一般講演と同じ）

26日；日本気象学会理事会 2017）。統合後の名称については専門分科会，提案者名称については世話人ということに致しました。この統合後の専門分科会は，2017年度秋季大会より，春季，秋季大会で実施されます。つきましては，以下に掲げる，専門分科会の趣旨を一読頂き，多くの会員が，研究と議論を活性化する，時宜を得た企画の提案を下さるようお願い致します。

参 考 文 献

- 講演企画委員会，1988：講演企画委員会からのお知らせ「スペシャル・セッション」試行について。天気，35，311。
- 講演企画委員会，1996a：「春季・秋季大会講演会のあり方」に関する意見の募集について。天気，43，136-137。
- 講演企画委員会，1996b：講演企画委員会からのお知らせ。天気，43，574-575。
- 増田耕一，1988：「スペシャル（テーマ別）セッション」提案者の弁。天気，35，455-456，440。
- 松野太郎，1997：もっと議論を。天気，44，5。
- 日本気象学会理事会，2016：大会運営に関する改善策について。天気，63，303-304。
- 日本気象学会理事会，2017：第39期第7回理事会議事録。天気，64，102-103。